

領域	項目別評価	総合評価	取組みへの意見	対策	学校関係者評価	
キャリア支援部	連携型中高一貫校に向けた新しい学校としての教育課程や規定について検討する。	3.4	・新教育課程の初年度であった1学年は、いろいろな場面で大変だったと思う。次年度は少しは動きやすくなるのではと思う。 ○新しいカリキュラムに取り組みができていた。 ○クエストなどの新しい取り組みが動き出している。教育課程については、地域を学ぶ講座と、創造性を高める講座、資格取得を目指した講座など、充実度を上げていければいいと思う。 ・小学校から習得化するなど地域一体で育むシステムの構築が必要。高校にあがってきてからでは遅い。	・新教育課程と旧教育課程が混在している年度であり、新しい学校設定科目など不透明な部分が多岐多岐をかけたが、2年目からはしっかりと計画を立て、事前準備をしっかり行い、実施する。 ・定期的にキャリア支援部だけでなく、総探、クエストの担当者会議を開催する。	保護者が最も求めている基礎学力の向上を学校運営の中心に据えてもらいたい。	
	生徒にとって個に対応し、より対話的で深い学びとなり、また教員にとって業務改善に繋がるICTの活用に向けた研修及び時間割の作成を行う。	3.9	・「ベーシックスキル」でスタディサプリを活用したり、「総探」でTimeTactを活用したりとBYODの活用頻度は増加した。 ・時間割の変更については、できるだけ自習のないように、担当者の希望に合った形で対応できた。 ・百問雑問の導入で、採点業務が大幅に削減できた。	●研究授業の実施回数が少なかったように思います。 ○百問雑問の導入や研修の実施など、とても働きやすい環境を作ってもらってありがたいです。 ○探求で、タイムタクトやTeamsを使った取り組みが行われ、少しづつではあるがICT活用度が深まりつつある。さらに充実度を図りたい。 ○百問雑問の導入で採点時間は削減されたように感じます。	・校内の研究授業だけでなく、連携中学との研究授業も実施する中で、教科科目での連携も図る。 ・全ての教科科目で百問雑問を活用できるようにし、生徒への活用も促していく。	
	総探及び学校設定科目「クエスト」などの探究的な学びの充実を図る。	3.7	・「総探」「クエストI」でコムシク、TSUGUシンの地元の方や大学教授や専門家の先生に大変お世話になった。連絡窓口と担当者が異なっていたので、迷惑を蒙ってしまったこともあったが、個々の生徒の活動としては発活し、2月開催に変更した浜高ボも、鳥取中央育英高校も参加するなど、大変盛り上がった。 ・TimeTactについては、想像していた内容と異なる部分が多かったため、来年度は採用しない方向で決めた。	○大変活発に実施できた反面、担当された先生方の負担感も大きかったのではないかと。●2学年の総探において、timeactが活かせなかったと思います。○様々なところで多彩に連携し、取り組んでいた。継続した取組につながれば、なお良いと思う。●掲げている項目は概ね達成されているとは思いますが、並列処理のできない生徒たちはかなり混乱しており、思うような学習効果が出ていない可能性も懸念します。●特に1年生のクエストと総探では、やること、テーマ、ミッションが多く、生徒は混乱し、管理・指導する教員も大変だった。外部の方に依頼すると深度も変化も出てきていいのですが、ある程度はやることを絞って年間を通してやっていくことも有効だと思う。放課後の指導、土日の活動も増えているので負担感は大いだと思います。●新しい取り組みを推進中である。回を重ねることに充実度を上げていければいいと思う。また、昨年取り組んでいた企業ゼミのような外部の取り組みを導入することも検討してはどうかと思う。●系統性を持った取り組みになるとより良いと思います。今年1年目ということもあり、担当された先生方はご苦労されたと思います。○1、2学年は浜高ボの発表でもあった通り年々深い内容の探究ができていいると思いがちです。●2学年でTimeTactを利用する機会があまりなかったです。●総探とクエストの負担は大きかった。 ・いつも忙しい中、学びの充実に関する取組ありがとうございます。キャリア統括部とは別に、総合的な探究の時間、クエストIなどを統括、運営する部署(？)、または定期的に情報共有し、計画を立てる委員会を作るべきだと思います。 ●総探、クエストの差別化に課題あり。体系的な指導が行えていない。	・TimeTactについては、こちらが思っていた内容ではなかった部分があり、次年度は採用しないことに決めた。 ・外部との連絡窓口の教務と担当者が異なることで、上手く連携ができていなかった部分解消するために、窓口担当者が担当者となるようにする。 ・総探とクエストの曜日を分ける。 ・探究とクエストの進捗状況と使用教室がわかるような連絡ボードを職員室に設置する。	人との対話や文章を正確に読み取る力や自分の中で整理して考える理解力こそが学力の土台であり、社会で求められる力と考える。その力の育成をお願いするとともに、「ここに来れば力がつく」と感じられる学校運営を期待する。 ボランティアやクエストへの協力を感謝する。生徒は受け身でコミュニケーションが取りにくい面も見受けられたので、積極的に関わってほしい。 先生方は地域活動の指導で大変かと思うが、無理をせず専門性を生かして助け合ってほしい。クエストなどの取り組みも、多すぎると思えるなら整理統合しても良いと思う。生徒が探究学習の意味を深く理解していることに感銘を受けた。地域の課題発見と解決力を養うため、今後も協力させてもらおう。
3 学年	卒業後の生活を見据え、確立された生活習慣を軸に自律・自立した行動と、公共の精神や社会性を身につける。	4.2	・1年生から学年が上がるにつれ、周囲を気遣う心が養われ公共の精神を身に付けてきた。 ・成人として責任を持ち自立した社会性を身に付けさせることは、まだ努力できる部分があった。	失敗を重ねながら成長するチャレンジ精神を持つように指導する。 失敗を生徒自身の責任として立ち直るところまで自分の力で経験できるとより伸びたと考える。		
	進路実現を達成するための個々の必要な教養を得るために日々の学習と自宅での自習自習を促し動機を身に付ける。	3.7	・早期に進路実現ができた生徒に対する学習指導がおろそかになった。 ・自習自習の習慣が確立できていないためスタディサプリの活用もうまくできていない。	・総合コースの生徒も、毎日家庭学習をさせる指導をする。 ○学年の先生と教科担当の先生が情報共有している姿をよく見かけました。 ・スタディサプリの活用を推進するのは良いと思うが、学年によって取り組みに温度差があると感じる。推進するならば方針を明確にすべきと思う。 ・生徒自らが考え進路実現を進めるような取り組みをもっと促すことができた。 ○3学年の取り組みを見て、参考にしたい部分もありつつ、勤務時間の長さが気になりました。果たして来年度も同じようにできるのかと言われると正直自信がありません。家庭の時間も大切にしたいです。	これからの生活を送る上で学力が必要になることを理解させることや、例えば資格取得をもっと促すなど継続した学習ができるような工夫があれば変わったかもしれない。言うだけでは変わらない生徒に対するアプローチの方法を模索する。	
	主体的に進路について取り組む力を育成する。高い志に向けて粘り強く挑戦し、個に応じた進路実現を目指す。	3.7	・担任による個別面談は充実しており、子に応じた進路指導ができた。 ・高い進路目標を目指す姿勢はまだまだ促さなくては、進路実現に対する耐性が高くない1年で改善しきれなかった。 ・第一志望決定率は3/2現在85%	・専門学校の1学期総合型決定者の指導 ○進路に向け熱心に取り組んでいた。 ○個に応じた進路指導がなされている。理科目については専門教科ではない者が十分な指導ができずご不便をおかけしている。 ・自分で考え、自分で動くことができる生徒の割合が少ない。 ○第一志望100%は達成できなかったが、個に応じた進路実現に向けて、進路指導部と学年で連携できた。	第一志望校を自らの力で決定する事ができない生徒もいる中で進路指導は難しかったので自分の進路を決定する責任を生徒に負わせられるよう指導することが先決だと考える。それが進歩高い進路目標も自主的な情報収集も決定率も100%に近づくと考える。	
2 学年	基本的な生活習慣と基礎的・基本的な学習習慣の確立	3.5	・週末課題や総合探究においてBYOD端末を活用したことで、ICT活用スキルの高い生徒を中心に、自律的な学習スタイルが確立された。 ・進路希望者が模試を通して「自分の位置」を把握し自律的に動出した一方、未受検の就職・専門志望者の学習意欲が停滞するという、意欲の相関関係が明確になった。	●基本マナーの指導とみられている自分の姿や身だしなみなど、外を意識した指導の充実が求められる。 ●遅刻して生徒の雰囲気や進路意識を感じて(急ごうとしない、時間を守る意識が低いなど) ・上記のほか3学期から始めた取り組みとして、新聞のコラムを読み、自分の意見を3行程度にまとめて書くというものをしています。将来の進路に向けて自分で何かを伝える訓練として始めました。始めるのが遅かったなと後悔しています。	基本マナー・身だしなみについては地道に声掛けていきたい。 「遅刻＝面倒な手続きが増える・自分の時間が削られる」という実感を物理的に与えてはどうかと考え、コラムは3年生になっても続けていきたい。	
	高い志と広い視野で将来を見据えた進路検討ができる資質を育成する。	3.7	・進路行事として、フィールドワーク、他校との合同進学相談会を実施。また講師による進路別の講演会を行うことで少しづつ進路実現に対する意識が高まっていることを感じる。 ・就業体験を実施し、事後ではその成果をまとめたポスターを作成することができた。 ・担任・学年主任による進路面談を実施している。	・進路フィールドワークを2年生実施として定着させる。 ○進路行事が幅広く実施されていた。 ・自ら調べたことや思いついたことだけでなく、いろいろなところから情報を得る機会をさらに増やすべきだと思う。オープンキャンパスや体験活動の充実を図る。 ○3学期に行った同校先生による面接指導などの進路LHRを通して、将来の進路に対する意識がより高まったのを感じました。 ●外部業者の活用はよいが、教員としての指導は不十分。	専門家の意見を聞かせたい思いから、外部を使った活用にも、重点を置きすぎた。教員の生徒に進路指導にあたる内容が不足していたと考えられるため、教員の進路に向けた学習機会も同時に増やしていきたい。	
	周囲のために行動できる共生心と思いやりある人間性の育成	3.5	・さまざまな行事や体験を通じ、達成感・成就感を味わうことで自信を高め、他者との対話を通して社会に貢献できる姿勢を身につける。また、地域活動を通してその未来を構想できる地域創生への意識を深める。	・公共のために自分ができることを考え行動するため、マナー指導や身だしなみなど、自分と外の両方に目を向ける機会と多くくり、教師も様々な場面で働きかける。 ●周囲のために行動できる共生心ができていく生徒もいれば、不十分な生徒もいるのでその力を伸ばせるような進路LHRを計画したいですが、具体的に決まっています。	地域創生に関わる若手起業家や、ボランティア経験が進路選択に繋がった卒業生による座談会をひらくなど「なぜ勉強しなければならぬのか」という問いに対し、「他者のために動ける力がある方が、社会で必要とされ、結果として自分の居場所が見つかる」という実例的なメッセージを提示したい。	
1 学年	基礎的な生活習慣の確立	3.6	・高校生活に慣れ、授業や部活動に集中できている生徒がいる一方で、就寝が遅く、朝食を抜き、授業に集中できない生徒も少なくない。 ・校内ルールの周知が徹底できなかったため、遵守するに至らなかった。	○少しづつ高校生活に慣れてきて、校内のルールもおおむね守れるようになってきた。 ○校内ルールはある程度守れているように感じています。 ・毅然とした態度で指導にあたります。	・ルールの徹底に関しては、今後も毅然とした態度で指導に当たるとともに、個人面談等も都度実施し、生徒と社会の意識のズレを認識させ、社会性を身につけさせる。	
	基礎的・基本的な学習習慣の確立と定着。広い視野で将来を見据え、進路を深く考える機会をもつ。	3.7	・スタディサプリを活用した課題の設定、夏季休業や春休みには学習計画表を用いて、計画的に学習するよう促すことができた。 ・各教科と連携し、学習の振り返りを習慣化することができるようになった。 ・年間5回以上、校内・校外の進路行事を実施。かつ地元企業と連携して行う授業において、進路や労働についての興味関心を持たせることができた。 ・タブレットを学習活動や進路検討に活用する習慣が確立された。	○タブレットを使って学習する習慣がついているように思います。 ○個に応じて対応されていた。 ○高校の学習に少しづつ慣れてきているようである。 ○タブレットを活用して、スタディサプリなどに取り組みしている生徒は多いと思います。 ・タブレットを学習活動に活用する習慣はある程度ついたが、スタディサプリを活用した課題の設定等家庭学習を習慣づけたための手立てが不十分だったと感じている。次年度は、各教科と連携を密にしたい。もっと生徒へ負担をかけたいきたい。 ・週末課題をはじめとした、自主的な学習の機会とその支援の拡充を目指します。	・今後、タブレットを持参するようには言わなくても、自主的に毎日持ってくるよう各教科に働きかけたり、生徒自身に学習に活用することの利便性を自覚させることで、もっと主体的に学習に活用していきたい。 ・スタディサプリを活用した家庭学習習慣をつけるために、教科だけでなく、学年から進路に関する動画を配信し、スタディサプリを開くことを習慣化させたい。	
	周囲のために行動できる共生心と思いやりある人間性の育成	3.5	・様々な行事や体験後は、振り返りを実施し、自身の行動について達成感や反省を言語化することができた。また、地域の方々や交流する機会を多く持ち、地域創生への意識を身につけることができた。 ・非対面コミュニケーションの難しさを理解できたが、適切なスマホやSNSでのコミュニケーションが身についたとは言えない。 ・新潟県社会福祉協議会や本校通級担当の外部講師の特別授業を計4回、教科指導を通して複数回実施し、おおむね他者を思いやる人間性を涵養できた。	○社会福祉協議会との教育の機会など活用できていた。 ○全体や自分の周りを見ながら、みんなに合わせて学校生活が行えるようになってきたと感じる。 ○タブレットの使用法で指導はありましたが、概ね達成していると思います。	地域の協力で、実現している学校設定科目が多いため、協力して下さる方や周囲に対して感謝の気持ちを、行動に移せるように、都度声かけをしていきたい。	